

## 《チェロとコントラバスのための二重奏(ニ長調)》<sup>1</sup> 水谷 彰良

チェロとコントラバスのための二重奏(ニ長調) *Duetto per Violoncello e Contrabbasso*

**作曲** 1824年7月20日(または以前)、ロンドン

**初演** 不明(時期は確定しないが、ロンドンのサロモンズ邸で私的初演と推測)

**編成** チェロ、コントラバス

**演奏時間** 約16分

**自筆楽譜** Basel, Paul Sacher Stiftung, Sammlung Rudolf Grumbacher

**初版楽譜** London, Yorke Edition, 1969.

**現行譜** 上記初版楽譜、及び下記の批判校訂版

**全集版** 未成立。批判校訂版は *Works of Giachino Rossini, vol.1. Chamber Music without piano, Bärenreiter, 2007.*  
[略号: WGR-1]

**構成** 1) ニ長調、4/4拍子、アレグロ 2) 変ロ長調、3/4拍子、アンダンテ・モッソ<sup>2</sup> 3) ニ長調、3/4拍子、アレグロ

### 解説

1823年11月9日から12月7日にかけての最初のパリ滞在で大歓迎されたロッシェーニは、続いてイギリスに渡った。同年12月13日から翌1824年7月26日まで7ヶ月に及ぶこのロンドン滞在では、国王ジョージ4世に寵愛されて社交界の寵児となった。ロッシェーニがこの地で作曲した二重奏曲は失われたと思われていたが、1968年に自筆楽譜がロンドンのオークションに出品されて研究者を驚かせた(その楽譜は1969年に初出版。上記初版楽譜参照)。

自筆楽譜にロッシェーニ自身のタイトル記載が無く、WGR-1は第三者による製本の外表紙に貼られたラベルの英語記載(Duetto for Violoncello & Contra Basso)をイタリア語にしたもの。楽譜の表紙にはロッシェーニ自筆献辞が「ロッシェーニより友人サロモンズへ、1824年7月20日(Rossini Al Su[o] Amico Salomons / Londra li 20 Luglio 1824)」とあり、ロンドンを去る直前に作曲献呈されたことが判る。

作品の依頼者サロモンズについては諸説あり、初版楽譜の編者は銀行家デイヴィッド・サロモンズ(Sir David Salomons, 1797-1873)と推測したが、批判校訂版ではコントラバス奏者ドラゴネッティの弟子フィリップ・ジョゼフ・サロモンズ(Philip Joseph Salomons, 1797-1866)の可能性が高いとする。ロッシェーニはコントラバスのパートを友人ドメニコ・ドラゴネッティ(Domenico Dragonetti, 1763-1846。[「コントラバスのパガニーニ」と呼ばれた名手。WGR-1は没年を1843年とするが、誤植と思われる])を前提に作曲し、時期は不明ながらサロモンズ邸で行われたと推測される私的初演では、ドラゴネッティがチェロ、前記フィリップ・ジョゼフ・サロモンズがコントラバスを弾いたとされる。二つの低音楽器によるデュオという風変わりな編成もこうした成立経緯に起因し、コントラバスを軽妙洒脱に活躍させる異色作となっている。なお、ロッシェーニはリチェーオ・フィラルモーニコでチェロとコントラバスのクラスに在籍し、この二つの楽器に習熟していた。

曲は、急〜穏〜急の三つのセクション[楽章]からなる——1) ニ長調、4/4拍子、アレグロ 2) 変ロ長調、3/4拍子、アンダンテ・モッソ 3) ニ長調、3/4拍子、アレグロ

**推薦** ディスク: Ensemble Explorations

(2001/03年録音 Harmonia mundi HMC 901847)



<sup>1</sup> 初出は『ロッシェーニアーナ』第35号所収「ロッシェーニ全作品事典(30) ロッシェーニの器楽曲②」。HP用の改訂版、2015年4月。

<sup>2</sup> 初版楽譜はアンダンテ・モルトと誤読。